

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 963 号	氏名	APONDI ERNEST WANDERA
学位審査委員	主 査	中込 治	
	副 査	安田 二郎	
	副 査	橋爪 真弘	
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、ケニアにおけるロタウイルスワクチンの定期接種への導入がロタウイルス下痢症の疫学および流行ウイルス株の分子疫学に及ぼす影響を明らかにしようとしたものであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>2014年、7月の定期接種導入前の5年間およびその後の2年間の総計7年間にわたり、定点病院での5歳未満の下痢症による入院児の臨床・疫学情報と便検体を収集し、標準的な分子疫学手法により解析したものであり、研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価</p> <p>ロタウイルスワクチンの定期接種導入後の2年間の下痢症入院患者におけるロタウイルス陽性率が、導入前のロタウイルス陽性率と比較して50%低下したこと、また、全調査期間を通じて流行株が著しい頻度の変化を伴いながらも G1 [8] であることを明らかにした。この結果はロタウイルスワクチンの有効性をケニアにおいて初めて明確に示したものである。今後のロタウイルスの分子疫学研究の進展に対する寄与が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は熱帯医学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			